キャラクター名: 碓氷　仁炉

プレイヤー名:

シンドローム	キュマイラ サラマンダー	ワークス	中学生	カヴァー	中学生
オプショナル		年齢	14	性別	男
覚醒	素体	衝動	妄想	初期侵食率	35 %
出自	兄弟	経験	実験体	邂逅	ビジネスパートナー

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	5	0	3	1	4	13
感覚	0	1	0			1
精神	1	0	0			1
社会	2	0	0			2

HP	47
行動値	3
(非装備時)	3
戦闘移動	8
全力移動	16

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			ＲＣ	5		交渉		
回避	1		知覚	1		意志	1		調達		
運転：			芸術：			知識：			情報：噂好き、情報屋、ハッカー、ウェブ	3	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
炎陽柱【スピキュール】		4r	0	9		100%以下
紅炎陣【プロミネンス】		10r	0	37		100%以上

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
コネ：噂好きの友人	
コネ：情報屋	
コネ：ハッカー	
コネ:要人への貸し	
メモリー:チェーン	
エンブレム黒のIDカード	
エンブレム	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
ロロイス：実験体　ロストナンバー	P	N		
FH研究員	P 好奇心	N 憎悪		
神城早月	P 信頼	N 不安		
無良恭子	P 庇護	N 不安		
	P 尊敬	N 嫉妬		
	P 誠意	N 隔意		
	P 庇護	N 不安		

最大財産P:	4	残り財産P：

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:サラマンダー	2	2	メジャー	-	-	自動	-	
効果：	クリティカル値を-Lvする(最低値7)							
災厄の炎	4	4	メジャー	至近	範囲(選択)	対決	-	
効果：	攻撃力+Lv×3の射撃攻撃							
魔獣の本能	1	2	ﾒｼﾞｬｰ/ﾘｱｸｼｮﾝ	-	-	自動	-	
効果：	このエフェクトを組み合わせた判定は【肉体】で判定を行える							
氷の回廊	1	1	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果：	飛行状態で戦闘移動を行う。その際、移動距離を＋Ｌｖ×2mする。							
完全獣化	2	6	マイナー	至近	自身	自動	-	
効果 :このシーンの間、【肉体】の能力値を使用したあらゆる判定のダイスをLv+2個する。ただし、このエフェクトが持続している間、素手を除くアイテムを装備することができない。								
終末の炎	2	2	マイナー	至近	自身	自動	80↑	
効果：	LV×5点までのHPを消費し、消費した分攻撃力が上がる							
プラズマキャノン	2	4	メジャー		単体	対決	100↑	
効果：	LvX5攻撃力の増加							
メモリー	1							
効果：	取得欄なかったので、こちらに記録。詳細はアイテム欄まで							
獣の魂	1	5	オート	至近	自身	自動	100↑	
効果：	D+5 Lv回数のみ							
熱感知知覚	1							
効果：	暗闇の中でも熱を追える。体温の変化から感情や体調の変化も読み取れる。必要であればRC判定。							
不燃体	1							
効果：	通常の炎や寒さからダメージを受けない							
眠れる遺伝子	1							
効果 :貴方の内側に眠っている獣の遺伝子を覚醒させることで、常に動物の姿で日常を過ごすエフェクト。ただし、その機能が備わるわけではない。								
体型維持	★							
効果：								

碓氷　仁炉　(ｳｽｲ ｼﾞﾝﾛ)　コードネーム：紅炎(こうえん)の橙赤狼(とうせきろう)【プロミネンスウルフ】　実験体の名:106番

気がついたらFHの施設にいた。いつから実験体になったのかは覚えていない。
ただひたすら繰り返される実験の苦痛を耐え、非人道的な行いをする研究員を憎みながら、毎日を生きていた。

そういう生活を耐えられたのも、実験体「106番」には心の支えとなっていた人物が二人いたからだ。
それぞれの名は「89番」と「135番」である。
血の繋がりがあるかどうか分からない。
しかし、なぜかこの二人とは意気投合でき、血の繋がりがあろうがなかろうが、【兄弟】と呼ぶに相応しい存在だった。

ある日、その関係が崩れる事件が起きる。
「殺し合え。」
FHの研究員たちによって暴走薬が投与され、気がついたら実験体同士での殺し合いが起きた。

自分の意識はあったが、自分で自分の身体をコントロールすることはできなかった。
別人が他の実験体を焼き殺しまわっているのを、ただ眺めているような感じであった。
数時間が経ち、生き残っていたのは自分含め3人だった。89番と135番である。

他の実験体を殺しても、特に何も思わなかった。
しかし、この二人と対峙した時、初めて人を殺したくないと思った。
嫌だ。殺したくない。殺さないでくれ。この二人だけは。
しかし、身体は言うことを聞かない。